



太鼓門にある大きな石は「遊女石」と呼ばれているもので、遊女を石の上に乗せて運んだと『新編風土記』にあります。この石は全国的に「鏡石」といい、慶長年間になる長さ3mを越す大きなものとなり、魔よけの意味があります。

北出丸の石垣に彫られた「文化十四年」(左)に修理した際の銘文。若松城には、西出丸に「天保三年」(右)に彫られた石もあります。また、太鼓門の稲荷神社西側では、「町野長門守」と彫られた石が解体修理の際に見つかりましたが今は見るできません。

城内に見られる「×」と彫られた石。加藤氏以降の時代の石にあり、キリシタン禁制が確立した時代であることから、キリシタンとは関係はありません。測量に使用されたものです。

文献 『若松城外郭・南町口』遺跡



「野面積」天守台の石垣

石は、川原石も一部にありますがほとんどは、「溶結凝灰岩」で、角の加工が雑なものです。



「打込みハギ」の石垣

慶長年間に蒲生忠郷によって積まれたもの。大きな石の間を小石で塞いだもの。石は「溶結凝灰岩」。下部に野面積の川原石があり、上を積替えたもの。



「切込みハギ」の石垣

石が四角に切り揃えられたもので、すき間も切り揃えた石で埋められています。石はすべて「溶結凝灰岩」で、東山町慶山の石切山から切り出したもの。



七日町の阿弥陀寺 若松城内にある御三階櫓にある本丸東側にあった三階櫓。内部4階。



若松城内にある御三階櫓の石垣。競輪場の建設に伴って石垣は撤去され、また復元されました。



太鼓門の内側にある石垣の合坂(あいざか)。武者走りともいいます。



天守台の南に一段低くて出ている石垣は、「横矢掛かり」